

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び最終評価に向けた改善策等
1 授業実践力の向上	① 【個別最適な学びの充実】 児童生徒の実態、ニーズを捉え、担任及び授業者等、学部全体で情報を共有し、共通理解のもと一人一人に応じた目標や学習内容を設定し、評価に努める。 【継続】	教務課	児童生徒一人ひとりの目標に応じた学びに必要な情報を部全体で共有し、共通理解のもと、授業実践することができたとする教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	教職員19名 ア あてはまる・・・21.1% イ ややあてはまる・・・73.7% ウ あまりあてはまらない・・・5.2% ア+イ 94.8% ＜評価A 目標達成＞ ア・・・青 イ・・・赤 ウ・・・オレンジ	今年度目標としてあげた「個別最適な学びの充実」への取り組みに関するアンケートの回答には、「教員間の共通理解が図れた」「まめに話し合いを持った」という言葉が多く見られた。教員同士が隙間時間を見つけて情報共有を行っていることがうかがえる。教員間の情報共有を密に行うことによって児童生徒個々のニーズを捉え、目標や手だてを明確にすることができた。その結果、児童生徒の意欲につながり、教科や自立活動に主体的に取り組む姿が多く見られるようになってきた。 しかし一部に「学部全体で共有・共通理解することができなかった」という意見も出された。情報の共有が学部全体にしっかりと広がるような体制、システムを考える必要がある。 今後も、児童生徒についての情報共有の機会を持ち、その情報が一部に滞りぬよう全体に広げ、児童生徒一人ひとりの目標に応じた学びの実現を目指していく。
	② 【自立活動の充実】 自立活動の指導において、外部専門家や教職員を対象にした研修会等で得た指導助言を日々の指導や目標設定に生かし、指導の効果を高める。	研究推進委員会 自立活動推進委員会	自立活動の指導において、専門的知見からの指導助言を日々の指導や個々の目標設定に生かし、指導の効果を高めることができたとする教職員の割合が A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	教職員19名 ア あてはまる・・・52.6% イ ややあてはまる・・・42.1% エ あてはまらない・・・5.3% ア+イ 94.7% ＜評価A 目標達成＞ ア・・・青 イ・・・赤 エ・・・緑	自立活動の指導において、専門的知見からの指導助言を日々の指導や個々の目標設定に生かし、指導の効果を高めることができたとする教職員の割合は、9割を超えた。その理由として、外部専門家からの指導助言を、日々の授業に生かしたり、指導改善を図ったりすることができたからであるとする。また、年間3回程の連携機会があることで、児童生徒の変容を踏まえて、指導の評価・改善点等について複数回相談できたことは、指導の効果を高めることに大きく繋がったと考えられる。 今後も、外部専門家との連携事業等において学びを深め、自立活動の充実を目指すとともに、校内の自立活動情報交換会をとおして、今年度取り組んでいた内容を次年度にも引き継ぎ、学びを継続していく。
	③ 【GIGA スクールの推進】 GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT機器活用に関する知識を高め、技能を身に付け、授業実践力を高める。	G I G A 校内研修推進委員会	ICT 機器を活用し児童生徒の主体的な活動や意思表出を引き出すための実践を行った教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	教職員19名 ア あてはまる・・・10.5% イ ややあてはまる・・・73.7% ウ あまりあてはまらない・・・10.5% エ あてはまらない・・・5.3% ア+イ 84.2% ＜評価A 目標達成＞ ア・・・青 イ・・・赤 ウ・・・オレンジ エ・・・緑	アンケートの結果「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した教職員が57.9%から84.2%に増えた。これは、G I G A校内研修会で、実践や活用方法の情報の共有や実際にスイッチ教材やタブレット端末をはじめとするICT機器を使った演習または、その活用方法を、具体的な児童生徒の姿を思い浮かべながら学部内で話し合ったことで、使用場面が具体的に想定でき、実際の授業での実践につながったと考えられる。 一方で、児童生徒は一人一人実態が違うため、ただ使うのではなく、個々に合わせてねらいを絞って使用していく必要がある。有効な場面で手段の一つとしてICTを選択して活用していけるよう、今後も教員それぞれのICT活用の幅をさらに広げることができるようなG I G A校内研修を計画し、取り組んでいきたい。

2 安全・安心、 活き活きした学校づくり	④	【医療的ケア体制の強化】 保護者・教職員・学校看護師間の連携を強め、様々な研修を通して情報共有や理解を深め、学級・学部を越えて医療的ケアのある児童生徒に関わる。	医療的ケア委員会	保護者・教職員・学校看護師間で連携をとりながら、様々な研修を通して情報共有や理解を深め、学級・学部の枠を越えて医療的ケアのある児童生徒にかかわることができたと考える教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	教職員19名 ア あてはまる・・・52.6% イ ややあてはまる・・・42.1% ウ あまりあてはまらない・・・5.3% ア+イ 94.7% ＜評価A 目標達成＞ ア・・・青 イ・・・赤 ウ・・・オレンジ 	学級や学部を越えて児童生徒の体調面や出席状況について共有したり、給食時間に連携をとったりして安全にケアを行う体制を整えることができたと考えられる。一方で、「医療的ケアのある児童生徒と関わるのがなかった」という意見もあり、継続して医療的ケアや児童生徒についての情報の周知に努めていく必要がある。 次年度は医療的ケアのある児童生徒の人数が増え、かつ全学部で在籍することになる。そのため今年度以上に教員の医療的ケアに対する知識・理解を深めることと、全校での教員間の連携が求められる。 今後は研修会や指導アドバイザー巡回事業等とおして教職員の専門性を高めていくとともに、委員会を中心に情報共有を行い、安全な医療的ケア体制を強化していきたい。
	⑤a	【実際に即した危機管理】 学校で起こりうる事故や災害等に対し、事前に想定される危機については、マニュアルを作成して対処法を周知したり、訓練等を通して体験的に学んだりして、誰もが常により安全な方法を選択できるようにする。	指導課	抜き打ち訓練や伝言ダイヤル体験に参加し、緊急時の対応が理解できたと感じる教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	教職員19名 ア あてはまる・・・47.5% イ ややあてはまる・・・52.5% ア+イ 100% ＜評価A 目標達成＞ ア・・・青 イ・・・赤 	抜き打ちの形で訓練を実施することで、各自で緊急時の対応について確認することができた。また、その後の振り返りやマニュアルの再確認をおして緊急時の対応の理解が深まったと考えられる。 「今どう動くべきか行動に迷った」、「自分で状況を判断して最適な方法は何かを考えて行動することが大切」という意見があり、災害時における最適な行動や対応を共通理解する必要があると考えた。 次年度は、災害における様々な状況を想定し、対応や対策について教職員同士で話し合う活動を取り入れて訓練を行うことで、危機管理意識や災害時の対応力を高めたい。
	⑤b		保護者	引き渡し訓練や伝言ダイヤル体験において、緊急時の連絡方法が理解できたと感じる保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	保護者16名 ア 理解できた・・・93.8% イ 少し理解できた・・・6.2% ア+イ 100% ＜評価A 目標達成＞ ア・・・青 イ・・・赤 	保護者へのマニュアル「災害時における連絡方法・安全確認について」の配付に加えて、本校ホームページに同マニュアルを掲載したことで、緊急時の連絡方法を保護者に理解していただいた。 保護者の回答からは「ホームページはアクセスする手間が必要なため、災害伝言ダイヤルの使用の方が良いと感じる」と「慌てている時に伝言ダイヤルを確認するための電話番号がでてこない」の両方の意見が寄せられた。 保護者が、緊急時の連絡方法がわかるよう、マニュアルに学校の電話番号を記入する等、内容を改善していきたい。
	⑥	【効率的・協働的業務の推進】 業務改善に向けて、分掌業務のデジタル化を推進し効率化を進め、業務を分担して行えるようにする。	教頭	会議のデジタル化を進め会議のペーパーレス化をはかり、会議の時間短縮と業務の効率が上がったと感じる教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【達成目標 B以上】	教職員19名 ア あてはまる・・・26.3% イ ややあてはまる・・・63.2% ウ あまりあてはまらない・・・10.5% ア+イ 89.5% ＜評価A 目標達成＞ ア・・・青 イ・・・赤 ウ・・・オレンジ 	職員会議の資料を事前に teams にあげて、各自都合の良い時間に資料の確認を行い、会議をすることが定着した。職員からも「大幅に時間短縮ができた。」「その分他の業務にあてられる。」「効率的になった」などの声が聞かれた。また、他の会議では適宜稟議や供覧にしたり、少人数の会議では会議中の記録をその場で確認しながら進めたりするなど、職員会議の効率化を実感したことで会議のあり方や工夫を職員それぞれで考えるようになってきている。 今後も様々な会議の効率化や書類や手続きの見直しを行い、効率化を図っていきたい。